



監修にあたって

世の中には、誰でも信用する人と、
誰も信用できない人との二種類の愚か者がいる。

(John M. Capozzi)

情報の誘導あるいはそれをすべて信じて取り込むことの危うさは、これまでに人間が犯してきたことを振り返ると明らかであるが、往々にして書物となったものは信じられやすい。共著となるものでは執筆者間の思想の違いが認められることは仕方がないが、一人の著者により記されたものよりは間違った方向への誘導が少ないことが利点かもしれない。このような書籍では限りのあるスペースに収める必要があることから、著者の真意がすべて表現されているとは限らない。したがって、内容に疑問を感じたとしても短絡的にただ批判をするのではなく、その裏に何があったのか、さらに自分であればどうするであろうかと空想することにより、さらに実力をつけていただけると確信している。言い換えるならば、当代一流と目されている方々の英知と経験が集約された本シリーズであったとしても、その内容をすべて丸呑みするのではなく、まずは疑問点を見出し、それをご自身で十分に咀嚼されてはじめて栄養になるのであろう。

情報を端から否定的に捉える方がおられるならば、知識や技術の進展を妨げるものともなり得ることから、それはあまりにももったいないことと思われる。

科学の一領域であるはずの医療は、試行錯誤の繰り返しから多くのことを学び、日進月歩の発展をしてきた。その背景には、大小の差こそあれ患者の犠牲を伴ってきたであろう。これからわれわれが携わる患者にそのような轍を踏ませないためにも、たかだか半世紀前の世の中とは雲泥の差がある今日の豊かな情報を活用していただきたい。しかしながら、時間が経つとその情報も古びてくるかもしれないが、生体組織の治癒機転にまで劇的な変化をもたらすことは少ないであろう。患者の心理を理解し、自然の摂理を尊重することが、いつの世にも医療従事者に求められる姿なのかもしれない。

小宮山彌太郎